

# 藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和6年 4月 25日  
横浜市立藤塚小学校  
学校だより 5月号

TEL (351) 2314

FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>

## 異学年の交流活動によって育む力

副校長 佐々木 唯吉

鮮やかな新緑の季節を迎えました。草花の芽吹く様子は、健やかに成長する子どもたちを思わせ、教育への夢が広がります。このたび、同じ保土ヶ谷区にある岩崎小学校からの異動で本校に着任いたしました副校長の 佐々木 唯吉（ささき ただよし）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

新年度が始まって早くも1か月が過ぎようとしています。子どもたちは、新しい学級にも少しずつ慣れ友達と意欲的に学ぶ姿が多く見られます。子どもたちの様子を見てみると、素敵な姿にたくさん出会うことができます。

最高学年の6年生は、1年生が安心して学校生活を送ることができるように入学当初から様々な面でサポートをしていました。朝、門の前でお家の人と別れて不安そうにしている子に「一緒に教室に行こう。」と優しく声をかけている子がいました。朝の支度をする場面では、初めの頃は6年生が手伝い、一緒に準備をしている様子をよく見かけていましたが、しだいに一人でも準備ができるようになってくると、少し離れた場所から見守るようにしていました。1年生と関わっているときの6年生の表情は、とても明るく、温かさでいっぱいです。そんな子どもたちの姿を見てみると私自身も温かく優しい気持ちになれます。

異学年交流は、ともすると「上学年が下学年の面倒をみる」というイメージがあるかもしれませんが、実際はそれだけではありません。上学年の児童には一層の自覚が生まれ、自分の行動を振り返るよい機会となり、リーダーシップと思いやりの気持ちが育ちます。更なる学びへと向かうことができます。また、下学年は上学年の姿に憧れの気持ちをもつようになります。自分が高学年になったら同じようにしたいという気持ちが育ちます。このようにして上学年が下学年を大切にするという藤塚小学校の素敵な伝統がしっかりと引き継がれていきます。



【牛乳パックの開き方を教えてくださいました】

こうした交流は、以前は学校でなくとも自然にできていました。私がまだ小学生だった頃には、田舎育ちだったということもありますが、近所には多くの「空き地」がありました。そこには放課後になると、特に約束をしたわけでもなく、近隣の子どもたちが集まり、年齢に関係なく思い思いに遊んでいました。そんな「空き地」で子どもたちは自然に年下を思いやる心を育んだり、長幼の序を学んだりしたように思います。

今は子どもたちの放課後の過ごし方も多様になっています。学年を超える交流を促すには、時には意図的・計画的な仕掛けが必要になります。藤塚小学校では、異学年によるたて割り活動を「絆活動」と呼び、年間を通して様々な交流活動に取り組んでいきます。交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子も自分のよさを発揮し、自己有用感を高めていけるよう支援してまいります。